県 公園

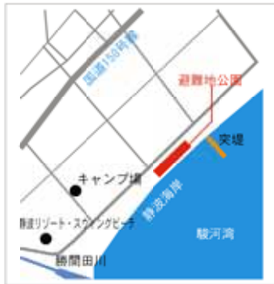
避難地公園整備事業（静波海岸）

津波発生時の避難場所を確保 普段は憩いの場として利用

避難地公園の工事現場

静波海岸の避難地公園は、予想される東海地震などへの津波対策として、海の利用者を素早く、安全に避難させるため、静波海岸内へ平成21年度から建設が進められているものです。

自由の女神像付近から東へ約250㍍の区間について海岸防潮堤と同様の高さにかさ上げした高台が築かれ、芝生広場やテラス、花壇などを備えた公園が整備されます。テラスでは、ビーチバレーやビーチサッカーといったマリンスポーツを観戦することができ、普段は、海岸を訪れる人の憩いの場として利用されることが期待されます。



海岸環境整備　もう一つの活動

県知事へ砂浜の復元を要望

フォーラムまきのはら　環境グループ

避難地公園整備は、海岸環境整備事業の一環として進められています。この関連事業として砂利浜化対策を目的とした新突堤事業などがあります。これらは、すべて行政側の取り組みです。

一方で、牧之原市内の海岸へ砂浜を取りもどそうと活動を続ける「フォーラムまきのはら海岸環境グループ」があります。

このグループは、海岸浸食でやせた砂浜を回復させようと、とうもろこしを原料とした土のうを海中に設置し砂を留めようとする実験「砂浜再生チャレンジ」を行うなど砂利浜化対策に取り組んできました。

メンバー11人は5月7日、県庁を訪れ、「砂浜の回復」を願う約1万5千人の署名を県知事に手渡しました。また、御前崎港における環境へ配慮した開発や県による土のう設置事業の推進、遠州灘沿岸浸食対策委員会への牧之原市の参加などについて要望しました。

これに対し知事と県交通基盤部長は、前向きに取り組むことを約束しました。

美しい砂浜を守りたい

フォーラムまきのはら
海岸環境グループ
代表　杉田直通さん

牧之原市の海岸の砂浜が浸食されています。フォーラムまきのはら海岸環境グループで、その原因について調べたところ、天竜川から砂が運ばれてくる際、途中にあるダムや港が砂の動きを止めていることが分かりました。

このほど知事に砂浜の現状などを伝えたところ、理解を示してくれました。

これ以上砂が減らないように、これからも海中への土のう設置活動を続けていこうと考えています。

県 水門

勝間田川水門設置工事

地震発生時に水門が自動降下 勝間田川への津波の進入を防ぐ

建設中の勝間田川水門

勝間田川水門設置工事が、想定される東海地震の津波対策として進められています。

平成13年に県が発表した東海地震の第3次被害想定では、勝間田川の河口付近で4・7㍍の津波が発生すると予想されています。この津波による建物被害は、静波から勝俣にかけての範囲で床下浸水（軽微被害）が522棟、一部損壊（床上浸水）が264棟、中破が54棟と想定されており、河口周辺市街地へ大きな被害がもたらされることが懸念されていました。

水門には地震計が設置され、震度5を感知すると水門が自動降下します。これにより、勝間田川へ進入する津波を未然に防ぐことができます。

工事は平成19年度に着工し、本年度は左岸護岸工などを実施しています。すべての工事は25年3月の完了を目標に進められています。

震源地が近いため津波到達前に水門を閉鎖することができない場合の東海地震津波被害予想を表すハザードマップ

■主な工程

年度	内　　容
8年度	水門詳細設計
12年度	用地買収スタート
18年度	用地買収完了
19年度	護岸工などに着手
20年度	本体工
21年度	ゲート工（左岸2門）
22年度	左岸護岸工、管理橋、連絡橋
23年度	本体工・ゲート工（右岸1門）

道路を整備し交通の利便性を高めます

道路は、通勤・通学などの日常生活や仕事での移動手段に欠かせないものです。車社会に必要であるということから、道路を整備してほしいといった要望はたくさん寄せられています。

道路、排水路なども年月が経過したことにより古くなり、修理があちらこちらで必要となってきました。

建設部では、限られた財源の中、修繕などの安全面を考慮しながら優先順位をつけ、本年度は、都市計画道路である山の手幹線、深谷橋の工事を始めとする各路線の整備をし、交通の利便性を向上していきます。

道路整備室長　丹所正和